

2017年度 海洋パイオニアスクールプログラム
「ながさき海洋人材育成プログラム」より単元計画案

本プログラムの活動状況を参考にして、地域産業を支える若い海洋人材の育成を目的とした海洋教育のモデルカリキュラムとなる単元の指導計画を試みに以下に立案した。

〈単元の指導計画〉

時	学習活動	指導上の留意点
① ② ③	【導入】 地域や地元、あるいは造船・海運業界団体などの支援を得て、職業経験者などによる講話を実施する。“海”が身近な“将来の活躍の場”であることを認識させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・造船-海運-船用工業&海洋産業の産業分野の裾野の広さを理解させる。 ・日本が世界でもトップクラスの海洋産業国であることを理解させる。
④ ⑤ ⑥ ⑦	【展開-自発的学習】 日本海事広報協会の「ジュニア SHIPPING ジャーナリスト賞」にならった壁新聞作りにより、「海運」、「船」、「地域との係わり」といったテーマを調査学習する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学内コンペを行い、優秀な作品は日本海事広報協会の本賞へ応募することで生徒のモチベーションを高める
⑧ ⑨	【気づきの体験学習】 “船はなぜ水に浮かぶのか？”といった工学の基礎をテーマに、実験的で体験的な学習を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な道具を活用
⑩	【見学など体験学習】 海事施設や造船所の進水式等を見学し、就労意識や進学意識を意識させる	<ul style="list-style-type: none"> ・関連機関への協力要請
外部連携 / 教材等 <ul style="list-style-type: none"> ・日本海事広報協会の「ジュニア SHIPPING ジャーナリスト賞」 ・国土交通省、日本造船工業会、日本中小型造船工業会などで実施されている「進水式・工場見学会」や「ものづくり体験講座」 		

* 報告書より抜粋